

=====

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
2024年3月期 第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

=====

<概要>

- ◇開催日時：2023年8月3日(木) 16:00～17:00
 - ◇内容：2024年3月期 第1四半期決算状況
 - ◇説明者：取締役 CFO 松島 弘明
-

<ご留意事項>

この「質疑応答要旨」は、決算説明会での発言内容全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

*文中における略称・用語について

■会社名

- ・BEC：株式会社ブルーエナジー
- ・LEJ：株式会社 リチウムエナジー ジャパン

■その他

- ・BEV：バッテリーEV
- ・EV：電気自動車
- ・PHEV：プラグインハイブリッド車
- ・HEV：ハイブリッド車
- ・LiB：リチウムイオン電池
- ・ESS：Energy Storage Systems
- ・非常用分野：データセンターや通信基地局向けなどにおいて、非常時のバックアップに使用される
- ・常用分野：再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントなどにおいて常時の充放電に使用される

【質問①】

車載用リチウムイオン電池事業の業績について、前第4四半期比では微減収減益になると思うが、BECの数量はQonQでどのくらい増えたのか、通期計画に対しての進捗を教えてください。

【回答①】

足元では、新車メーカーごとに状況が異なるが、計画比では半導体不足の影響が一部残っている状況。また昨年度から原材料価格が高騰しており、売価是正を進めている段階。一方足元では原材料価格が軟化している状況で、原材料価格の売価反映のタイミングずれが発生している。そのため売上は計画比で若干落ちている。

BEC の数量は、4Q 対比で若干減少している。

【質問②】

原材料価格高騰に対する価格転嫁の効果は第 2 四半期以降に影響が出てくるのか？

【回答②】

原材料価格が高くなっていたタイミング(前期)にプラス効果が出ていた。足元では原材料価格が下がったのに対して、売価を下げている状況。現在の生産では、原材料価格が高いタイミングで購入した原材料価格をベースにしているため、タイムラグでこの上期はネガティブ要素になると考えている。

【質問③】

自動車電池（国内）の値上げの浸透状況を教えてください。昨年度も値上げを発表しており、昨年度第 1 四半期の決算説明会で、9 割ほどの顧客から値上げの了承を得ているという話があったが、今年度はどのくらい浸透しているか。

【回答③】

補修向けの値上げについて、現時点で 8~9 割の顧客から承諾されている。上期中に値上げはほぼ完了できるとみている。

【質問④】

航空機用 LiB の好調や管理部門の経費の削減による効果で、特殊電池およびその他事業で利益が出ているが、今後も同等の利益水準を見込んでいるか？

【回答④】

現時点で事業部では保守的に予想しており、不確定な面はあるが、当初計画に対しての上振れの可能性はあるので期待してほしい。

【質問⑤】

自動車電池（海外）が厳しい状況だったと思うが、インドネシアの不振はまだ継続しそうか。

【回答⑤】

インドネシアの状況として、昨年度上期は非常に好調だったが、下期の後半から数量が減少し始め、現在も継続している。事業部門が現地に足を運び、マーケットの市中在庫の状況を視察してきた結果、7月時点では捌けつつあるとの報告を受けている。そのため8月以降はインドネシアの業績も反転攻勢で回復に向かうと予想している。

【質問⑥】

第1四半期実績は計画比で上振れたと思うが、第2四半期累計の業績予想の修正には、第1四半期の伸びのみを反映しているのか、上期全体での伸びを反映しているのか。上期全体での伸びを反映している場合、第2四半期の利益が通常時と比較して少なく感じる。

【回答⑥】

主に第1四半期の実績の上振れを反映しているが、第2四半期の上振れも一部見込んでいる。7～9月の市況が不透明なこともあり、若干保守的に予想している面はあるが、上期の上振れを見て業績予想の修正を発表した。通期はさらに不確定な要素があるため、もう少し精査した上でお伝えしたいと考えている。

【質問⑦】

Hondaとの合併会社が8月から事業開始との発表があったが、設立後の進捗を教えてください。
また、BEV用LiBの生産工場は滋賀県に建設するとの話があったが、そのほかの進捗はあるか？

【回答⑦】

2023年7月に合併会社を設立し、8月から事業を開始している。当社は先んじてBEV用LiBの開発を進めている。以前Vision 2035説明会や決算説明会でお伝えしたスケジュールから特に変化はない。この数年間でしっかり開発を進め、並行して生産拠点の構築を進めていく。2027年にBEV用LiBの生産を開始する予定で、それ以降が本番だと考えている。それまでの開発・生産技術の改善が勝負なので、遅れないように取り組んでいきたい。

BEV用LiBの生産工場についても、進捗はあるがまだお伝えできる段階ではない。

【質問⑧】

自動車電池（国内）の補修向け数量が微減だったとのことだが、新車向けの生産は好調だと思う。今後も補修向け数量は微減で推移するイメージなのか、現在の水準が維持され

るイメージなのか？

【回答⑧】

コロナ禍で新車向けが減り、利益率の高い補修向けが増える、という傾向が昨年度までの2～3年間続いていたため、利益を押し上げていた。現在は新車向けが増えてきているので、その反動で補修向けは若干減る流れになると思う。昨今の猛暑などの気候変動を踏まえると、補修向けの需要は激減することではなく、微減が継続すると予想している。

【質問⑨】

上期の計画を引き上げた一方で通期予想を据え置いているので、下期の計画が下方修正になっている。具体的に通期のリスクとしてどのような面を想定しているか？

【回答⑨】

1つは、自動車電池（海外）において、当社が重要拠点と位置付けているトルコの経済動向が不透明なため、営業利益への影響、為替による影響があること。現在はヘッジを行うことで為替差益に転じており、経常利益は一定改善しているが、引き続きリスクであると考えている。2つは、自動車電池（国内）、車載用リチウムイオン電池において、新車メーカーの販売動向がどうなるかが不確定要素であること。これによりBEC・LEJの稼働率にも影響してくるが、完全に予測できていないので、必要に応じて通期の業績予想は修正したいと考えており、引き続き検討していきたい。

【質問⑩】

1Qの車載用リチウムイオン電池の業績について、売上高は良かった一方、利益は前年並みになっており、経費等のマイナス影響が大きい。BEC第2工場の償却負担増に加えてBEV用の研究開発費の増加も影響していると考えているが、経費増加の内訳についてもう少し詳しく教えてください。

また、BEV用の研究開発費以外の、このセグメントに残る研究開発費については今後増える見込みなのかどうかも併せて教えてください。

【回答⑩】

BEV用の研究開発費は昨年度よりも増加している。一方、今年度2QからはHondaとの合併会社（持分法適用会社）を中心にBEV用の研究開発を行うため、持分法損益に費用が移行することになるが、当初計画には織り込み済み。今後本格的にHondaとBEV用の研究開発を進めていくにあたり、費用の見直しが必要な場合は随時検証していきたい。

BEC の状況について、1Q の生産数量が想定よりも少なかったため、第 2 工場の稼働開始に伴う償却負担を賄いきれておらず、操業度にも影響を与えている。

【質問⑪】

産業電池電源において営業利益が増加しているが、足元ではどの用途が好調なのか。

【回答⑪】

昨年度、非常用の電池電源装置を中心に値上げを発表しており、想定よりも順調に値上げが浸透したことで増益になった。また北米を中心とした産業電池電源の販売会社が好調だった影響もあった。継続して値上げの効果が見込まれるため、2Q 以降も好調が期待できる。

【質問⑫】

当期純利益の増加要因について、前期に中国での訴訟費用を計上した反動が大きかったと認識しているが、間違いはないか。

【回答⑫】

昨年度は 1Q に 17 億円弱、中国のパナソニックとの合併会社における訴訟費用を計上したため、経常利益以下が下ぶれた。今期はその費用がなくなったことによるプラス効果が出ている。

【質問⑬】

中国拠点の株式持分比率を 100% から 30% に引き下げると発表されたが、今後も 30% を残す背景は何か。また第六次中期経営計画において、今回の譲渡は数値計画に入っているのかも踏まえて教えてください。

【回答⑬】

中国拠点から日系新車メーカーに製品を納入している。当社は日系メーカーとの取引が豊富である一方、持分譲渡先である Leoch 社はこれまで日系メーカーとの取引がほとんどないので、しばらくは支障が出ないよう、持分 30% を維持することで技術支援をしていきたいと考えている。

第六次中期経営計画においては、中国拠点の譲渡を加味して立案している。想定よりは売上高が伸びないという意見もあったが、中国拠点の譲渡による影響を含めての計画になっている。

以上